

研究テーマ	<p>[IV 見方や感じ方を広げ、深めること]</p> <p>形の面白さを感じたり何かに見立てたりして豊かな造形感覚を育てる題材の工夫 ～第3学年「切り絵で表現する世界」の実践を通して～</p>
-------	---

守谷市立守谷小学校 亀崎 英理子

1 研究テーマについて

児童は作品の制作過程から、自ずと他の児童の作品を鑑賞しながら、自分の作品を生み出している。よって作り始めから終わりまで表現活動と鑑賞活動は相互に作用し合うものとして捉えた上で、児童が試行錯誤しながら制作する過程を含めてテーマに迫りたい。

子どもたちは日頃から、折り紙など紙遊びに親しんでいるが、今回は、紙を折って切る活動を中心とした切り絵を題材として取り上げる。1枚の紙を折って切る活動では、はさみを入れた段階ではどのような形ができあがるか分からないというドキドキ感がある。また、折り方やはさみの入れ方一つで、表現世界がまるで変わってくる面白さがある。そこで、紙を折ってから切って開くと、シンメトリーになったり、繋がったりする楽しさを子どもたちに味わわせながら、自分の想像していたものと切り取った紙の形に相違があることも生かして体感させていきたい。はさみは日常的な場面でよく使用しているが、案外使い方に慣れていなかったり、細かい作業は苦手な児童も多い。また、紙を切った残りを無造作に捨ててしまうことがよくある。本題材では、思うような形に切れなくても、その紙の形を生かしてそこからイメージを膨らませて制作していくことを大事にしていきたい。偶然にできた紙の形にも面白さがあることを積極的に捉えさせ、何気ない形から価値を見いだすことができるように支援していく。

最終的に制作した切り絵を台紙に貼ることで、自分の想像する世界が台紙に広がるようにする。お互いの作品を鑑賞し、どんな世界をイメージするか考えさせ発表しあう。そこから、一つの作品でも見方によって様々な想像ができることや、自分の作品に対しても、他の児童の意見を聞くことで、自分では想像しなかった見方や感じ方があることに気付くことができるような場をつくっていく。自分なりの見方で感じたことやイメージしたことを伝え合うことで、能動的に感性を働かせるとともに、多様な感じ方や見方があることを実感として捉えさせ、他の児童の感じ方を理解したり、共有したりすることをねらいとする。

2 実践例

(1) 題材名 ようこそ 切り絵の世界へ

(2) 目標

- ・切り絵の活動を通して、紙の変化に関心を持ち、紙を折ったり切ったりした形の面白さを発見して意欲的に制作に取り組もうとする。 (関心・意欲・態度)
- ・切り紙の良さや美しさなど感じたことをもとに、表すものや用途を考える。 (発想・構想の能力)
- ・表したいことに合わせて、形の感じや特徴を生かし、表現方法を工夫する。 (創造的な技能)
- ・折り方や切り方によって、紙の形の感じが異なることに気付くと共に、自他の作品について、自分の言葉で話したり人の話を聞いたりしながら、互いの見方や個性に気付き、認め合うことができる。 (鑑賞の能力)

(3) 題材について

① 紙の形に注目して、見方を広げ表現できるようにする。

今回は紙の形に焦点を絞って造形活動に取り組めるように、切り紙を白、台紙を黒に統一した。左

右対称として形を捉えたり、形が輪になったり繋がったりする面白さを味わえるよう、紙は折ってから切っても切りやすい薄い物を用意した。

② 友達の作品について想像を膨らませる鑑賞の場の工夫

これまでの図工の鑑賞活動では、児童は友達の作品について良い点や工夫点を見つけることはできるが、「～が丁寧」「～が細かくてすごい」等といった技能的な部分のみの見方や「面白い」「かわいい」など大まかな印象を並べる言葉で終わってしまう児童も見られた。今回は一步踏み込み、他の作品の世界観に想像を膨らませて迫ることを目指したい。そこで、「そこはどんな世界でしょう?」「どんなお話が聞こえてくるかな?」といった問いかけをし、他の作品に対して自分でテーマを考えてカードに記入し、伝え合う活動を行う。まずグループの中で作品を見合ってから、クラス全体で鑑賞することで、全員が自分の作品について考えてもらえるように場を設ける。

(4) 指導計画(3時間扱い)

時間	学習活動	評価の観点			
		関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
1 本時	切り絵の制作過程について考え、切り方を探求する。	試作品を見て、どのように作るのか興味を持ち、探求することができる。		折ったり重ねたり、様々な切り方を考えて試すことができる。	作品に触れ、自分でも試したいと思ったり、生かそうとしたりする。
2 本時	紙を切り、気に入ったものを台紙に貼り付ける。	様々な形を生かし、組み合わせたりして、思いを表す活動を楽しもうとする。	紙を切って偶然出来た形から良さや美しさを見だし、それに合わせた表し方を考えることができる。	表したいことに合わせて、紙の折り方や切り方、はさみの使い方を工夫することができる。	無作為の形や偶然できた形にも価値を見だし、生かすことができる。
3	切り絵の鑑賞会を行い、他の作品から想像される世界を伝え合う。 良い点や工夫点を伝え合う。	様々な友達の作品を積極的によく見て、良い点や工夫点を見つけようとする。	友達の作品から自分のイメージを膨らませてテーマを考え、伝えることができる。		自他の作品の新たな見方に気付くことができる。 他の作品の発想や表現の工夫を感じ取り、共感したり認め合うことができる。

(5) 本時の学習

- 【目標】
- ・表したいことに合わせて、様々な紙の切り方を工夫することができる。
 - ・様々な形に価値を見だし、表現に生かすことができる。

【準備・資料】

- ・段ボール箱
- ・大きさの異なる白紙(薄いもの)
- ・参考作品(切り絵)
- ・黒画用紙
- ・学習カード

【展開】

学習活動・内容	教師の働きかけ(○), 評価(◎)
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">1 まいの紙が変身するひみつを探ろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の活動を見る。 ・出来た切り絵を見て,どのように作ったのか考える。 ・作り方を予想して発表する。 「折ってから切っている。」 ・気付いたことや感じたことを発表する。 「左右が重なり合う形になっている。」 <p>2 紙を折って切る活動をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">折って・切って・開いて・・・ 色々な切り方にチャレンジしよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒントコーナーや友達の切り方を見て,色々な切り方を試す。 <p>3 台紙に紙を貼る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・切った紙を黒い台紙に並べて形をみて考える。 ・気に入った形のものを選んで組み合わせたりして,台紙に貼る。 <p>4 後片付けをする</p> <p>5 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業状況を確認しあう。 ・感想を学習カードにまとめる。 	<p>○ワクワクするような言葉かけをし,活動への意欲付けをする。</p> <p>○1枚の紙を見せ,箱の中で分からないように作業し,折った紙に切り目を入れて切る。切って開いたものを見せ,どのように制作したのか考えさせる。</p> <p>○折って切る課程から,切り絵を実演して見せ,制作方法を知らせる。</p> <p>◎切り絵の制作方法に興味を抱き,作り方について進んで考える。(関心・意欲・態度)</p> <p>○基本的な折り方や切り方を紹介し,自由に切らせる。</p> <p>○折り方を色々にしていいことや,四角以外の形から始めてもいいことを知らせる。</p> <p>○ヒントコーナーを用意し,教師が作った作品を並べておく。</p> <p>○様々な大きさの紙を用意しておき,自由に選ばせる。</p> <p>○鉛筆で下絵を描いてもいいことを知らせる。</p> <p>◎折ったり重ねたり,色々な形を様々な切り方を考えて試し,工夫することができる。(創造的な技能)</p> <p>◎参考作品や友達の作品に触れ,工夫点に気づき,自分でも試したいと思ったり,生かそうとしたりする。(鑑賞の能力)</p> <p>○切った紙の組み合わせを考え,新しい表現の方法を考えさせるようにする。</p> <p>○「台紙の中はどんな世界かな?」「どんなお話が聞こえてくるでしょう?」など声をかけ,自分なりのテーマをもって紙の形を見て,イメージがふくらむようにする。</p> <p>◎偶然出来た形を生かそうとする。(鑑賞)</p> <p>◎形の良さや美しさを見だし,それに合わせた表し方を考えることができる。(発想・構想の能力)</p> <p>○次時は作品鑑賞会を行うことを伝え,意欲づけをする。</p>

3 成果と課題

【成果】

- 制作の課程で、自ずと友達作品を鑑賞したり、工夫点を見つけたりしようとする姿が見られた。

「〇〇さんが捨てようとしている紙が、〇〇に見えるから、捨てないで僕の作品に貼り付けたいな。」といった声が行き交い、偶然できた形に注目して、自分が生み出したものだけでなく、友達の生み出したものにもアンテナを張って利用していた。どんな紙の切れ端でも敏感に何かの形として感じとる力は、子どもたちに備わっている力であり、今回の授業ではその力がよく発揮されていたのではないかと感じた。また、グループでお互いの作業が見える環境で授業を行ったので、自然と「〇〇さんの紙は〇〇に見えるね。」といったやりとりや、「これは何に見えるかな？」など他の児童の見方を参考にする姿も見られ、一つの紙の形に対して、友達との交流や対話を通して様々な見方をしようとしていた。

- 無作為に出来た形を積極的に利用し、新しい発想へと繋げる柔軟性が生まれていた。

「イカを作ろうと思ったら雪だるまみたいになったので雪の世界にした。」など、当初作ろうと思った形と実際に切った形のイメージが異なっても、それを積極的に生かそうとする姿が見られた。また、学習カードで、「切って開いたら、自分の思った形が作れなかったところが面白かった。」という感想や、「〇〇さんが、切った後の残りの形も使っていて面白くて良かった。」という感想も生まれていた。紙の形の面白さや美しさを能動的に見だし、形から感覚や感性を働かせて自分なりの世界を作ろうとする児童が多く見られた。

- 一つの作品でもそれぞれの見方があることに気付くことができた。

グループ内で互いの作品を見合う時間、ある児童の作品を皆で見ていた際に、「これは本を読んでいる人みたい。」「食いしん坊のおばけにも見える。」「ぼくは〇〇のつもりで作ったんだよ。」など様々な意見が交わされていた。作り手本人は自分の作品について、友達の視点によって新しい見方があることに気付きそれを受け入れる姿が見られ、鑑賞する側は、作り手である友達の想像している世界を感じとろうと、感覚を研ぎ澄まして作品に触れていた。お互いの感じ方の違いを共有する時間になっていた。

《 制作の様子 》



「魔女？コウモリみたい？」 「床に置いて遠くから見てみよう。」「切ってみたら輪になったよ。」

《 作品 》



題名 「コウモリ村の冬まつり」



「まよいの森のおばけやしき」

《 鑑賞の様子 》



【課題】

学習の目標であった「表したいことに合わせて、様々な紙の切り方を工夫することができる」という点については、表したいことに固執しすぎて、思うように切れず作業が進まない児童が見られた。また、一部では紙に表したい物を細かく丁寧に鉛筆でしっかりとかいて、そこからずれないように切っている児童も見られ、工夫して試行錯誤しながら、紙を折って切る面白さを味わうというより、「下絵を描いて忠実に切る作業」という状態になっていた。紙を折って切ると、開いた時にどんな形になるかワクワクするという導入時の実演の際にもっと見せられたら良かったと考える。また、中学年のはさみを使いこなす技量を考えると、模倣することから覚えることも多いので、もっと造形のヒントになるもの(型紙やヒントカードなど)を用意しても良かったと感じた。

「様々な形に価値を見だし、表現に生かすことができる。」という目標については、はさみを上手に使いこなせない児童にとっては、紙をうまく切り抜いたり出来ず、イメージが膨らむような形すら生み出すことが難しかったように感じた。中には上手く切れないので、切りくずを台紙に貼って形を作っていく貼り絵の作業になっている児童も見られた。この目標に重点をおくならば、みんなが自由に切った紙や切れ端を一つの箱にまとめて、その中から各自好きなように紙を使えるようにすると、切る技術に左右されずに、鑑賞して生み出す力が一人一人発揮されるのではないかと思う。

今回の学習では、見方を柔軟にして、自分なりの自由な発想をもって制作活動をしてほしいという思いもあって、参考作品を用意したが模倣できるような物を多く与えず、「こうすればこのような形が出来る」といったような切り方の細かい指導は行わなかった。イメージを膨らませるためにはある程度の技能も必要であり、指導のバランスが難しいと考えさせられた。日頃からはさみを使う機会を大切に、はさみを使いこなす技能を日常的に身につけていくことが必要だと感じた。その上で、今回の授業を行うと、もっと様々な作品が生み出されるのではないかと思う。